

留 学 報 告 書

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部経営学科
留学先国	米国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: スタンフォード大学 現地言語: Stanford University
留学期間	2019 年 6 月～2019 年 8 月
留学形態	☒ 大学間/学部間協定留学 ☐ 認定留学
留学した時の学年	3 年生(渡航した時の学年)
留学しようと決めた理由	大きな理由は二点あります。一点目は競争的な環境に身を置くことで、自己を成長させたかったからです。大学受験の経験から、自己に負荷がかかることにより、知識のみならず精神面が大きく背負えるということ学びました。従って、かかる大学群は、その学生たちの優秀さにおいて秀でているという事実そのものを魅力的に感じました。 二点目は米国の多様性を肌で実感したかったからです。企業にとって多様性の持つ力というものは凄まじいものです。そうした力を米国企業は利用し、それが世界最大の経済大国の一つの支柱になっているのではないかと考えました
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備 (効果のあった勉強法や教材、留学準備に役立った授業等)	英会話の練習をしておけばよかったかなと思います。特段流ちょうに英語を話す必要はありませんが、ソーシャライジングというのは大学生活を送るうえで不可欠です。ある程度スムーズに会話がこなせた方が、より多くの人と、より深くかかわることができることにつながります。また日々の国際ニュースをチェックするといいいでしょう。共通文化を持たない相手にはなにがしかの共通点を作ることが、得てして肝要であると考えます。
この留学先を選んだ理由	米国有数の名門大学であるため、質の高い授業があると予想しました。また、明治大学と協定があるためハーバード大学と比べて出願プロセスが容易であるため、出願のハードルが低いことも重要です。さらに、トップユニバーシティ奨学金でカバーされており、金銭的負担は、現地での雑費やホテルの宿泊費程度で抑えられます。加えて、西海岸は気候が温暖であり、キャンパスは自然であふれているため、快適な環境で学習が進められると考えました
大学・学生の雰囲気	非常に国際色あふれています。サマーのプログラムであるため、世界中から留学生が集まっています。また、オンオフがしっかり切り替えられる学生が多いという印象です。テスト期間はキャンパス侍従の勉強スペースが埋まり、オンキャンパスでの数多くのイベントはいつも盛況でした。とりわけ授業中の学生たちの熱意には胸を撃たれました。授業の内容だけでなく、一つ深い教授の洞察や知識を得られる絶好の機会を、正に生徒が作り出していたのです。授業のクオリティの半分は学生の熱意が作用しているといっても過言ではない、そんな印象を抱きました。
寮の雰囲気	三階建ての寮です。特に理由のない場合は、常にドアを解放しておくというポリシーがあり、非常に開放的な雰囲気があります。毎週寮ごとのトリップが企画されているため、寮のメンバーとの交流を持つ機会は多いです。近所のビーチ、シリコンバレー、水族館、遊園地、野球スタジアムなど、自分の興味に合う催し物が見つかると思います。また、自主的なものを含み、民族料理なんかをふるまう機会もあります。かように、学生間の交流を図る機会は豊富にあります。
交友関係	ルームメイトのパキスタン人と、オリエンテーションで知り合った韓国人中国人、また同じように日本から来た留学生たちと交友を深めていました。ジムに行ったり、カフェでコーヒーを飲んだり、あまり日本での交友の深め方と違って変わらないように感じました。また近所のスーパーでお酒を買ってきて、部屋が近い仲間たちと軽いパーティーを開いたりしました。国際情勢や社会問題、恋バナに至るまで、様々な会話を通じて、育ってきた背景的文化的諸影響に加え、それを捨象した個性を体感でき愉快なものでした。
困ったこと、大変だったこと	私はとりわけ食事が好みではありませんでした。確かにハンバーガーやピザなんかは美味しいわけですが、過剰にそれらを摂取することは栄養面で不安が残ります。従ってサラダを中心に食べるわけですが、野菜が美味しくない。食堂ではシステム上、ビュッフェスタイルなわけで、そこから好きな分量取り分けるわけですが、野菜がどうもすべて乾いています。スープなどは時間によっては美味しいいただけますが、保温の温度設定が高いのか、夕食時に飲むと煮詰まりすぎています。 加えて留学して最初の 1 週間ほどは講義の内容すらまともに聞き取れませんでした。いわゆるルームメイトの英語をや。私は TOEFL のリスニングで 29 点獲得していましたが、やはり生の英語という物に事前に触れる必要性をこの経験を通じ実感しました。

学習内容・勉強について	意思決定、会計、経済学を履修しました。意思決定の授業では確立を利用して投資の判断や、いかに人間のバイアスを取り除くかを学びました。会計の授業では、概念の背景にスタートアップが用いられるなど、スタンフォードならではのフォーカスを感じられました。経済学では、大恐慌を経済学的側面から理解するというストーリーが大枠であり、それを理解するためにマクロ・ミクロ経済学を学んでいく流れでした。講義でわからないところがあれば TA に直接聞きに行ったり、教授に気軽にメールできたりと、充実した学習をすることができました。
課題・試験について	授業によって課題の量はまちまちですが、休日はたいていの時間を課題の消化に努めるほどの量がありました。決してこれは課題の内容が難解であるということではなく、一つの課題に対して多面的な知識が必要であり、それらを一つの回答に落とし込むという点において、時間がかかるものでした。試験は持ち込みの可否によって難度が変化するという印象です。とりわけ経済学では、実際のアメリカのデータに対して、習った概念を用いて記述するという物でした。もちろん思考力が試される試験であることに疑いの余地はありませんが、やはり概念の暗記に立脚してのみそれらは役に立つが故、持ち込み負荷の試験は難しいものでした。
大学外の活動について	2 か月と短いプログラムですが、様々な機会があります。著名な活動家による講演や、起業家によるワークショップなど、時間に余裕があればいくらでも学ぶことができる機会がそこにあります。先述の通り、学びだけでなくレジャーアクティビティも多数あるため、単位を取りすぎなければ、様々なイベントに参加することができます。
留学目的の達成度について (留学を経験して感じたこと、成長したことを踏まえて)	当初の目的は達成できたと思います。第一に、競争的な環境によって自己を成長させるという目標がありました。膨大な量の課題を消化することに加え、授業の仲間たちとディスカッションしたり、協調したりすることは、他者と物怖じせずに積極的に関わるというマインドセットを醸成することができました。 二点目の目標は多様性を体感することでした。これは日々の生活を送ることで見られる経験はもちろん、サンフランシスコで行われた性的マイノリティのパレードを目の当たりにすることで、日本では得難かった肌感を体験することができました。
留学を志す人へ 「これを知っておいて欲しい」と思うこと、アドバイス等	子細なアドバイスはいくつもありますが、何より肝要なのは何故留学をしたいかということです。ここまでお読みになった読者諸氏には既知のことと存じますが、機会の豊富さを、自分が留学を通じてどのように成長したいかという思いがなければ、有効に活用することなどできません。もちろん、機会費用を恐れずに飛び込んでいくこともまた留学を充実たらしめる一要素です。私もかような思いで参加しましたが、レジャーアクティビティに注力するのか、国際的交友を深めるのか、講義に注力するのか、それ以外の学びを最大化しようとするのか、そうしたフォーカスが曖昧であったため、最初にスタンフォードで何をしたいのかをしっかりと固めるとこうした機会を最大限活用できると思います。頑張ってください。

